

佐賀大学広報誌 がちがらす

特集

就活なんて怖くない!!

活躍する佐大OB

佐賀から宇宙へ!

宇宙航空研究開発機構

永松 愛子さん



イキイキ佐大生

佐賀から世界へ

第11回世界陸上選手権大阪大会

女子中距離日本代表

陣内 綾子さん

ボランティア紹介

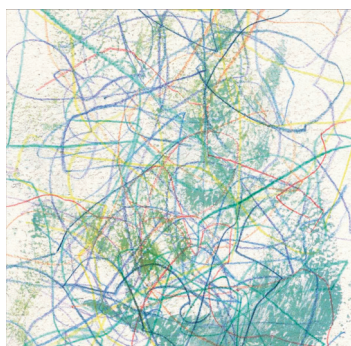
ルピナス(警察ボランティア)



サークル紹介

ハワイアン、チアリーディング

etc



内定を勝ちとる秘訣とは。

3年生

- 農学部応用生物科学科3年
山 畑 ゆきの
- 理工学部知能情報システム学科3年
本 田 翔 太
- 文化教育学部国際文化課程3年
大 石 麻 美
- 経済学部経営法律課程3年
川 畑 成 央



飯田 「思っていることを素直に話すこと、そして質問の意図を冷静に考えて答えるように心がけました。あとは、元気のよさですね。それと、学生時代に何をやったかというところは結構聞かれましたね。そういうのを自分の中でまとめておくのもいいかなと思います。」

山畑 「サークルやアルバイトなどの話でもいいんですか？」

工藤 「いいけど、他の人と同じような内容にならないように話したほうがいいと思うよ。アルバイトならその話でどういうふうにアピールするか。やはり面接官の印象に残るかというのが重要ですね。」



山 畑 ゆきの

本田 「面接の時ってどんな空気なんですか？」

工藤 「それは面接官次第。」(笑)

大石 「面接官って何人ぐらいいるんですか？」

工藤 「それも会社次第だよな。(笑)でも、だいたい一次は集団面接が多いかな。二次とかになると面接官と一対一になります。」

大石 「就職課とか利用されましたか？」

本田 「私は結構利用しました。行ったほうがいいですよ。」

山畑 「どういことを相談されたんですか？」

本田 「最初、就活って何をしたらわからないからだったんですけど、相談員の方と話しているうちに『あなたはこういう性格だからこういう職業がいいよ』とかアドバイスをもらいました。それにリクナビに載っていないような地元の求人票



大 石 麻 美

もかなりきていますし、実際、私はそこで見つけました。あと、履歴書の添削や面接の仕方も相談にのってもらえたので、私にとつてはとても役に立ったと思っます。」

■就活って何がたいへんですか。

本田 「就活をやっているで大変だったこととか、つらかったこととかありましたか？」

本田 「いっぱいありますけど、交通費がたかさんかかるのが大変でした。親に助

けてもらったりはしたんですけど…。それと、周りに内定者が増えてくると精神的に焦ったりしました。」

工藤 「結構きつい質問とかありましたね。皆さんは、他にどんなことが大変でしたか？」

那川 「採用試験に英語があったんですけど、私は英語が苦手なので結構大変でしたね。」

飯田 「僕の場合も交通費はきつかったですね。」



本 田 翔 太

本田 「交通費っていくらくらいかかったんですか？」

工藤 「受ける会社の数にもよりますが、軽く10万は超えるんじゃないですか。」

大石 「最終面接だと東京までで7万くらいですか。」

工藤 「そうですね。でも最終面接だと会社側が出てくれると思いますよ。」

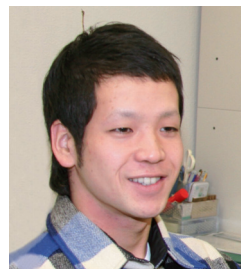
山畑 「もう、やめたいなあとか思いましたか？めげないためには、どうし

たらいいでしょう。」

工藤 「早めに内定をもらうこと

ですよね。(笑)でも、それができないからなんです。」

飯田 「んー、やっぱりポジティブ思考ですね。積極的に臨めば就活することで、結構人間的に成長できると思います。」



工藤 「ひたすら、自分の気持ちと闘うしかありませんね。それか、まだ内定をもらっていない人もいっぱいいると思うので自分を安心させたりするからですね。」

これから、大変かもしれませんが皆さん頑張ってください。」

※リクナビ
リクルートが提供する求人情報サイト。
現在、就活を行う学生にとって情報を得るための必須アイテムとなっている。

※SDI
Synthetic(総合的な)Personality(個性・性格Inventory)評価の略語であり、個々の総合的理解を目的に開発された適性検査のこと。現在、多くの企業が人材採用の基準に用い、この検査で受験者の職務遂行能力・職場適応性・自己適応性、を判定している。

座談会

学生にとつて就職活動は、一生をも左右する重要な事です。どんな企業にしたらよいか、どういふ風に就職活動をしたらよいか、不安や疑問をたくさん抱えている学生も多いことでしょう。

広報室では、そんな学生の悩みが少しでも解決してくれることを期待して、すでに内定をもらった学生とこれから就職活動に臨む学生の座談会を企画しました。

■リクナビにエントリー

工藤 「今日は司会をします工藤といいます。よろしくお願ひします。

では、さっそく始めたいと思いますが、就活(就職活動)についての疑問や不安なことなどを僕たちにぶつけてください。」

川畑 「自分もまだリクナビ(※)とかにエントリーしただけで、何から始めたらいいか分からない状態なんですけど、何から始めたらいいですか？」

飯田 「僕は、もともとやりたいものが特になかったので、とりあえずリクナビに130くらいエントリーして、会社説明会に行ったり、いろんなジャンルの会社を見て興味のある会社を受けてみました。」

本田 「みなさん、いつころから就活を始められましたか？」

飯田 「そうですね。遅いって言われたんですけど、3年の12月くらいからリクナビに登録を始めました。もう少し早く始めたらよかったですか？」

前田 「私は、10月の頭くらいからリクナビにエントリーしました。でも、一般常識やSPI(※)とかはすぐに身につくものではないので、特に早くから始めたほうがいいと思います。」

本田 「えっ、じゃ、僕はもう遅いんですか？」



工藤 隆大



前田 亜早実



那川 真紀



飯田 信寛

(笑)

大石 「エントリーは職種を絞ったりしたんですか？」

那川 「私の場合ははじめからこういうのをしたいと決まっていなかったというものがあって、いろんな職種にエントリーしました。面接などに行くうちに自分に合っている会社を探しましたので、最初から絞ったりはしませんでしたね。」

工藤 「最初は幅広く業種を絞らず50社くらいにエントリーして、その中で最終

的に興味があったのが銀行でした。悩んでいるのであれば、リクナビとかでたくさんエントリーしておけばメールなんかもくるので、いいんじゃないかと思えます。」

山畑 「会社の合同説明会は参加されましたか？ 参加されてどういふ点がよかったんですか？」

工藤 「いろんな学生がきているので刺激を受けますし、資料集めとしても有効ですね。」

れば教えてください。」

工藤 「面接が終わった後に言われたんですけど、マナーと物事を理論的に話すということを重視していたみたいですね。」

本田 「じゃ、バイトの面接とは全然違いますね。」

工藤 「バイトの面接のような楽なものじゃないですね。」(笑)

前田 「やはり自分の言葉で自分の考えを伝えられるようにしていた方がいいと

■面接について教えてください。

山畑 「面接は、何社くらい受けましたか？」

工藤 「自分は、最初に受かったところに決めたので、最終的には10社も受けてないと思います。」

前田 「私は10社くらい受けました。」

那川 「面接は2社受けただんですけど、1社は推薦でそちらが先に決まったのでそこで就活はやめました。」

飯田 「僕は、6、7社くらいですね。」

川畑 「面接を受ける時の注意点とかあ

思います。」

那川 「緊張したりして、見当違いのことを言ったりしてしまうこと

もあるので、やっぱりコミュニケーション能力

も大切だと思ひます。」

就活なんて怖くない!!

内定者

- 農学部農学研究科 修士2年 工藤 隆大 (司会)
- 株式会社三井住友銀行 (株主)
- 文化教育学部国際文化課程4年 前田 亜早実 (第一生命保険相互会社)
- 理工学部工学系研究科電気電子専攻2年 那川 真紀
- 自立ソフトウェアエンジニアリング
- 経済学部経営法律課程4年 飯田 信寛
- ソニーソリューションズ株式会社

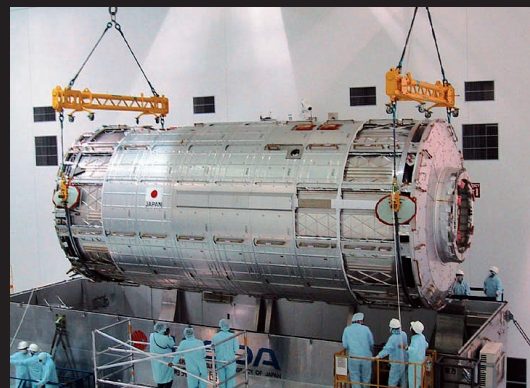


する力を伸ばすために、先生方が全力
投球をしてくださったのだと感謝して
います。

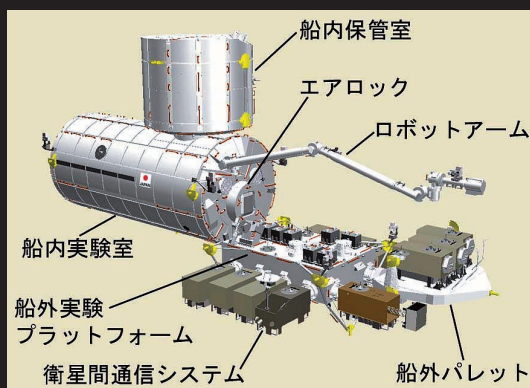
遺伝子工学から宇宙放射線物理へ

佐賀大学を卒業して、国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学の修士課
程へ進学し、念願の宇宙開発事業団へ
エンジニアとして入社しました。現在、
国際宇宙ステーションやスペースシャ
トルに搭乗する日本人宇宙飛行士や生
物試料の、フライト期間中の宇宙放射
線被ばく線量を計測する研究開発を担
当しています。

宇宙飛行士が滞在する、国際宇宙ス
テーションの船内実験室は、地球上と
同じ様な空気組成、1気圧が保たれて



現在ケネディ宇宙センターで、来年の打ち上げを待つ日本の実験モジュール「きぼう」



日本の実験モジュール「きぼう」の構成図



完成した宇宙ステーション予想図(CG)

おり、温度や湿度も宇宙飛行士が活動し
やすい環境にコントロールされています。
しかし、ISS船内でも、地上で
被ばくする自然放射線(約1mGy)に
比べると、約100倍の線量にあたる「宇宙
放射線」を「微小重力環境下」で被ばく
します。宇宙放射線は、エネルギー範囲
が非常に広く、さらに陽子からFe核
までの幅広い種類の放射線粒子が360度
等方的に入射する、これは地球上には
ない特殊な環境です。このため、宇宙放
射線が測定できる特殊な宇宙用線量計
の開発が必要です。宇宙飛行士が軌道
上に生涯滞在できる期間は、軌道上で
計測した被ばく線量をもとに決定され
るため、測定精度の高い線量計である
ことも必須です。

ISSを建設する各国の宇宙機関と

協力を図りながら、開発段階の線量計
の性能検証をするためのフライト実験、
測定精度を検証するための地上加速器
を使った照射実験を進めてきました。
多くの研究機関からの協力を頂きなが
ら、PADLES(パドレス: Passive Dosimeter for Life Science Experiments in Space)
という線量計とその測定技術の開発に
至っています。来年から、日本の実験モ
ジュール船内の定点放射線モニタリン
グを行うArea PADLES、生
物試料の被ばく線量を計測するBio
PADLES、日本人宇宙飛行士が
身につけるCrew PADLES線
量計が搭載されます。

生物から宇宙放射線物理へと全く異

なる分野を担当したのですが、宇宙放
射線物理に生かせる生物学もたくさん
ありました。宇宙開発は、材料工学、機
械工学、物理工学、医学、生物学等、全
ての分野の技術と知識の集大成です。自
分の専門分野を多岐に広げていくこと
は、どんな仕事においても重要なこと
だと感じています。

佐賀大学の皆さんへ

ぜひ佐賀大学から、宇宙開発や航空
技術へ興味を持ち、この分野で活躍さ
れる方が増えて欲しいと願っています。
佐賀から宇宙へ！羽ばたいて欲しいと
思います。

最後に、佐賀大学の、特に女子学生の
方へのエールを送りたいと思ってお
ります。私は、社会人をしてながら「宇宙放
射線物理」の博士課程に在学する学生
でもあり、2歳と1歳の男の子のママ
でもあります。エンジニア、妻、ママ、大
学院生と、いろんな肩書きを持って楽
しい毎日です。全てを両立することは
たいへんですが、ある年代でしかでき
ないやりのあることです。幅広い
分野に興味を持ってチャレンジし、そ
れを継続することは自分を大きく成長
させてくれます。大学時代の4年間は
そのための種を蒔く期間です。佐賀大
学という素晴らしい環境の中で、たく
さんの可能性を広げてください。

佐賀から 宇宙へ!



宇宙航空研究開発機構(旧:宇宙開発事業団)
 有人宇宙環境利用プログラムグループ
 宇宙環境利用センター 開発員
 ながまつ あいこ
永松 愛子さん
 1997年3月 農学部 応用生物化学科
 遺伝子工学 谷本研究室卒

国際宇宙ステーション(ISS: International Space Station)は、地上から約400km上空に、アメリカ、日本、カナダ、ヨーロッパ各国、ロシアが協力して建設する巨大な有人施設です。1998年からISSの建設が始まり、40回以上に分けてスペースシャトルやプロトン、ソユーズロケットにより打ち上げられた構成要素が組み立てられています。ISSが飛行する宇宙環境は、微小重力、高真空、良好な視野、宇宙放射線などの地上では容易に得ることのできない特徴があり、その宇宙環境を利用することにより、極めて広範な分野にわたる研究や実験、観測などを行うことができます。そこで得られた成果を活かして、科学・技術をより一層進歩させること、地上の生活や産業に役立てていくこと(スピンオフ)ができるのです。来年2008年から、日本の宇宙実験モジュール「きぼう」が、スペースシャトルにより打ち上げられ、ISSに取り付けられ、3人の日本人宇宙飛行士も搭乗します。

就職のきっかけともなった佐賀大学での思い出とともに、現在、私が担当している宇宙開発業務のご紹介をしたいと思います。

佐賀大学の4年間

入学のきっかけは、高校3年生になった春、佐賀大学農学部の実験風景をテレビで見たことでした。学生の自主性や研究する力を伸ばすことが一番の目標、「農学」は砂漠や未来の宇宙基地を緑に変える力になるかも、というナレーションに「ここだ!」と閃いたのが始まりでした。「生物」をもっと勉強したい、幼い頃から興味を持っていた「宇宙開発」にも携わりたい、その両方を叶えられるのが農学部と思ったのです。その年の11月には、推薦入試で入学が決まりました。研究論文は、谷本静史教授のご指導のもと、「オオカナダモのストレス応答遺伝子の単離」の研究に取り組みました。オオカナダモは、佐賀の水路のどこにもいるトチカガミ科の沈水植物、実験植物としてよく使わ



宇宙放射線研究のために訪れたNASA ジョンソンスペースセンターにある研究室の写真。アポロ計画の月面探査によって持ち帰られた月の岩石を保管してあります。岩石内の成分やダスト(細かい粒子)の分析がされている。

れています。水中に生育しているため、スペースシャトルの微小重力環境に近いのではないかと、そのストレス応答遺伝子の単離は、宇宙実験に役立つのではないかと始めた実験でした。オオカナダモを採るために網を片手に、護国神社沿いの真緑色の川へ入ると、水上から見た想像よりもはるかに水深が深く、首まで浸かったこともありました。入学早々、宇宙開発をやりたいという私の気持ちを真正面に捉えてくださった先生方、宇宙開発へ結び付く機会を得られるように様々な学会へ連れて行って下さった谷本先生、励ましてくれる友人に恵まれた、ありがたい学舎でした。この頃に知り合った様々な分野の研究者の方々とは、社会人になった現在でも、宇宙開発の業務を通してお付き合いが続いています。入学した動機の通り、学生の自主性や研究

人々の深い信仰心から 生まれた合唱

南アフリカ共和国 WYC (世界青少年合唱団) 活動

文化教育学部
学校教育課程 3年
うら た ち ひろ
浦 田 千 尋



今年の7月から一ヶ月間、私は南アフリカ共和国で行われたWYCの活動に参加しました。WYCとは、World Youth Choir (世界青少年合唱団) の略称で毎年世界 30 以上の国と地域から約 80 人 (17 歳から 26 歳) を選考し、ユネスコの親善大使としてコンサートツアーを実施しています。WYCに入るには試験があり、第一次選考、第二次選考、さらに第三次選考 (世界審査) があります。日本からは今年私を含め2名が選ばれ、去年参加した2名の方も参加し、計4名が日本を代表して行きました。

WYCの一員として過ごした約一ヶ月の南アフリカ共和国での日々は、私にとってかけがえのないものとなりました。そしてこの日々は、私自身のこれからの合唱への関り方に深く関係すると思います。

仲間や家族から暖かく見送られ、17時間かけて到着した南アフリカ。現地の季節は冬。一日の温度差が激しく、昼は半袖シャツ、夜はセーターで毎日毛布に包まって寝るという生活でした。

セッションが始まったころは、75名のメンバーの顔と名前を覚えるのと、慣れない英語にどぎまぎしていました。

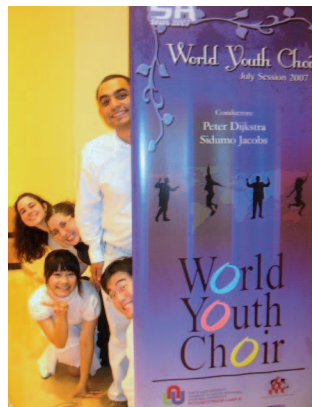
メンバーはソリストのように歌がうまい。そして歌や踊りが大好きで、いつも誰かが歌えば皆が合わせて歌い、大合唱になっていました。会話が不安だった私にとって歌ったり踊ったりする時が一番彼らと心が通い合える気がしました。

コンサートは合計 11 回あり、そのほとんどが教会で行われました。天井が高く、石造りの壁、巨大なステンドグラス、どこも立派なものでした。

ツアーで色々な町を回るなかで、様々な南アフリカの国の現状が見えた気がします。道路の真ん中で新聞を売る黒人の少年、町で働いているのは全て黒人、コンサートに来た観客も黒人と白人の座っている席がきれいに分かれていました。日本の中からは決して見る事ができなかった、気づくことができなかった現実がありました。そして、そのアパルトヘイト問題には、とても簡単に解決できない複雑さがあることがこの土地へ来て分かりました。そんな中、黒人の町ソエットの教会のミサに参加し、演奏する機会がありました。黒人のマリア様が飾られてあるその教会で、数百もの人が賛美歌を歌い踊る。彼らの歌や祈る姿を見て、この人々の深い信仰心から合唱が生まれていったのだと思うととても感動しました。

私たちは合唱を通して人々に平和を発信します。合唱をする行為そのものが平和の象徴、そして平和への祈りであることを改めて実感しました。

合唱をしていなければ出会うことがなかったメンバーとの別れは本当に悲しかったが、あのアフリカの広大な大地で、共に歌い合えることの素晴らしさを分かち合えたことは何よりの喜びです。この感動のいっぱい詰まった夢の一ヶ月の経験を大事にして、これからの人生に生かしていきたいと思います。



佐賀から世界へ

第11回世界陸上選手権大阪大会 女子中距離日本代表



文化教育学部
学校教育課程3年
陣内綾子
じんのうち あやこ

どこまでも広く、そして澄んだきれいな佐賀の空を見ながら走っているとやっぱり私の居場所はここなんだと思う。特に遠征の後はこの空を見ていると心が休まる。佐賀は何もないとよく言われる。スポーツの現場においてもほかの県に比べると、（陸上競技のことしか私は知らないが）、設備や用具、強化体制など大きく遅れを取っている。その中でほかの選手と同等、いやそれ以上で戦うには何か誇れるものが必要であるとコーチである村山先生からずっと教わってきた。競う相手がいなかったら自分より少し速い男子とやればいい、スピードのある短距離選手とやればいい。毎日ではできなくても週に2日程度、総合グラウンドで練習をしている高校生に相手になってもらい練習することは、高い緊張感を日々保つためにも効果的な練習となっている。

陸上競技という種目は相手との戦いであることはもちろんだが、800Mという距離の特性上、自分との戦いにまず勝たなければ良い結果は生まれない。2分間の間にほんの少しでもきつさに負ければそれ以上がんばることはできない。強気でいられるか、弱さを出さないかが勝負の鍵を握る。2分間自分との戦いに勝った者が勝負にも勝てる。私はメンタル面でも走力においてもまだまだ弱いと感じている。強くなるためにはやはり練習しかない。一日一日を真剣に取り組むことがたった一つの道である。レースで走っているときには、背中を押してくれる人もいなければ、代わりに走ってくれる人もいない。私が走らなければだれもいないのである。大学に入ってからもう3年が過ぎたが自分の中で納得のいくレースは1年の6月以来ほとんどない。国内の勝負にこそ勝ってはいるが、本当に強い選手の中でのレースではまったく歯が立っていない。4年生になる来シーズンこそはという思いがある。今から5ヶ月間の長い冬季練習に入るがこの5ヶ月を充実したものにし、更なるステップアップを図りたい。「もっと強い選手になりたい。」今の自分の思いはそれだけである。



共同通信社提供



発達障害と心身症への 支援に強い教員の養成

発達障害児がクラスに1～2人いる現実

佐賀大学が申請し、採択された事業名は、「発達障害と心身症への支援に強い教員の養成－文化教育学部・医学部附属病院連携による臨床教育実習導入とカリキュラム開発－」です。発達障害とは、授業中じっと座ってられなくて動き回る、人間関係を築くのが苦手な孤立している、計算や書字などある特定の学習が困難といったことなどを示すものを言います。最近の脳の研究から、高等な脳の発達障害だと考えられるようになりました。本人もつらいし、このような児童・生徒がいるクラスの運営も大変になります。統計では1クラスに1～2人いることになっています。不登校もまた増加傾向にあります。不登校の原因はさまざま、起立性障害などもそのひとつです。



文化教育学部教育学・教育心理学講座
教授
池田 行伸
いけ だ ゆき のぶ

医学的観点からのアプローチ

発達障害や不登校を正しく理解し、適切な教育を行うためには、これまでの教員養成で学ぶ知識だけではなく、医学的観点からの理解も必要になります。そのために佐賀大学では文化教育学部の教員養成に、医学部附属病院の小児科医の協力を得て教育プログラムを作ったのです。その核となるのが「臨床教育実習」です。問題を抱える子どもたちを大学に招き、その子どもたちの教育の方法を考え、実践します。それが

うまくいったら、その子どもたちの在籍校で、学校の先生たちと協力しながら教育の実践を行います。学部、大学院の学生がこのプログラムに参加し、実践的な教育能力を身につけるのです。この事業は佐賀県との連携・協力事業でもあります。佐賀大学は今後もこのようなかたちで地域に役立つ大学をめざしていきます。

スマイルルームの開講

スマイルルームは、発達障害と心身症への支援に強い教員の養成を目指した教育プログラムを具体的に実現したものです。学部、大学院の学生は、子どもたちとの触れ合いを通して実践的な教育能力を身につけていきます。



みんなと一緒に「スマイルルーム」
先生と学生、子どもたちが一緒になって
ゲームをしている様子

アフリカ単一起源説の解明

私たち現生人類集団の直接の祖先は、いつどこで誕生し、どのように進化してきたのか。

約200万年前、アフリカで猿人（アウストラロピテクス）から進化してきた原人段階の人類は、そのすぐれた身体的・文化的な適応能力を背景に、西アジアからヨーロッパや東アジアへ拡散し、それぞれの地域で独自の進化を遂げる。原人は50万～20万年ほど前には次の段階の人類—古代型新人、あるいは旧人—に進化するが、この段階になるとヨーロッパのネアンデルタール人に代表されるように、地域的な独自性も次第に顕著になってくる。

さて、このように進化してきた古代型新人が、それぞれの地域でさらに進化して、現代人—解剖学的

新人—になったと考える説を「多地域進化説」と呼ぶ。この説に従えば、私たちアジア人の直接の祖先は北京原人やジャワ原人といった東アジアの原人にまでさかのぼることができよう。この学説は古人骨や考古学の研究から、比較的最近まで、広く受け入れられてきた。一方、古代型新人から解剖学的新人への進化は15万～20万年前にアフリカのみで起こり、彼らはその後5万～10万年前に再び世界へ広がり、各地域の古代型新人と入れ替わったと考える説があり、「アフリカ単一起源説」と呼ばれる。これは、特に近年急速に発展してきた集団遺伝学やDNA分析の結果から提唱された新しい説である。



現生人類の起源を探る

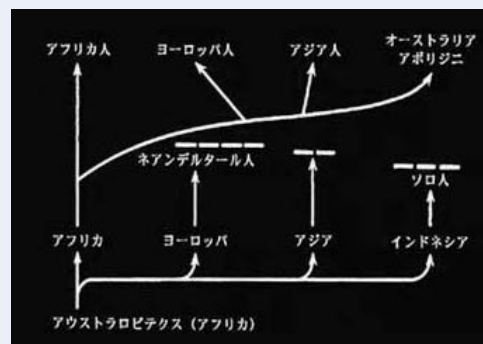
医学部生体構造機能学講座教授

はに ほら つね ひこ
埴 原 恒 彦

私の研究は、頭蓋や歯の形から、集団の成り立ちや移動、類縁関係を調べることであり、これまで国内外の様々な大学、博物館等で、世界各地の集団のデータを収集してきた。最近、これらのデータの一部（約6200個体分）を用いて、全世界集団の頭蓋形態の変異を分析した結果、アフリカ集団の頭蓋は変異が大きく、アフリカから遠くなるほど集団内の変異が小さくなっていることが明らかとなった。

一般に、ある集団が同じ地域で長い時間留まるほど、また、その集団の規模が大きいほど様々な人間が誕生するので、変異が大きくなる。アフリカから遠い地域ほど変異が小さいということは、その地域に移住した集団の規模が小さく、また、定住してから、あまり時間が経過していないと考えられる。そうすると、上記の結果は、現生人類が比較的最近アフリカで進化し、その後世界各地に広がっていったことの裏付けとなる。

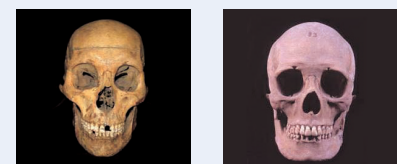
私たちの祖先がどういうルートでアジアやヨーロッパに広がったのか、またどのくらいの規模の人たちが移動していったのかなど、問題はまだまだ山積している。



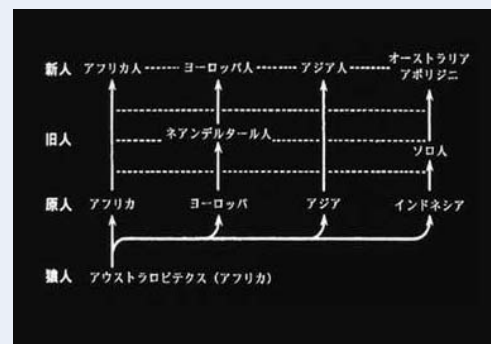
アフリカ単一起源説



個人差の大きな西アフリカ集団 (ナイジェリア)



日本人:両者とも面長でやや平坦な顔つきで個人差は小さい



多地域進化説

トピックス



佐賀大学のCMは、学生のアイデアでつくろうということになり、まず、西村先生の授業を受講している100人を超える学生からキャチコピーを集めました。学生の佐賀大学のイメージには、自転車が多い、大空の見える、並木がある、平らなところという答えが多かったのですが、その中で津口紀子さんのキャチコピー「いなかのくせに国際派」と田中里保さんのカチガラスが話し合う様子を描いた画コンテが選ばれました。

撮影と編集は、西村先生の指導のもとで濱田悠君がほとんど一人で行いました。

前半のカチガラスは、平成16年度佐賀県トライアル発注事業に選定されたペーパークラフトを用い、後半は留学生が正門近くの並木道で手を振っています。全編に渡って卒業生の弓削田健介君の演奏とボーカルが流れており、最後は長谷川学長ご自身が「佐賀大学」と締めくくられています。

映像・音響の技術指導を担当した
文化教育学部 教授
すみ かず ひろ
角 和 博

非常勤講師

にし むら ゆういちろう
西村 雄一郎 (映画評論家)



撮影風景



TV コマ

「今度大学のCM作ることになったんだけど、それに音楽をつけてくれませんか」最初にこのような電話をいただいた時、凄く嬉しくて、即引き受け、すぐに作りました。6年間通った母校のCMソング。大きなやりがいを感じました。映像を何度も見て歌詞を考え、歌を入れました。作業は楽しかったです。誘ってくださった先生方、ありが

とうございました。あの歌が少しでも、大学のPRのお役に立てていれば、卒業生として本当に幸いです。

平成19年3月
教育学研究科
教科教育専攻
音楽教育専修修了
ゆげた けん すけ
弓削田 健 介 さん



CMのお話を西村先生から最初にうかがった時、正直不安な気持ちでいっぱいでした。趣味の一つとして映像を撮ったことはあったのですが、まさか自分の作ったものがテレビで流れるなんて考えたこともありませんでした。CM制作中は本当に大変で、何度も投げ出したと思ったのですが、西村先生をはじめ、角先生、出演してくれた中村さん・留学生の方たち、そして音楽担当の弓削田さん、絵コンテ・キャッチフレーズを考えてくれた学生さん、その他ご協力頂いた多くの皆さんのおかげで何とか完成にこぎつけることができました。監督とは名ばかりで、足を引っ張ってばかりでしたが、とても貴重な経験をする事ができたと思います。

教育学研究科 1年
教科教育専攻技術教育専修
濱田 悠



佐賀大学では、平成19年8月から「STSサガテレビ」でTVコマージュの放映を開始しました。

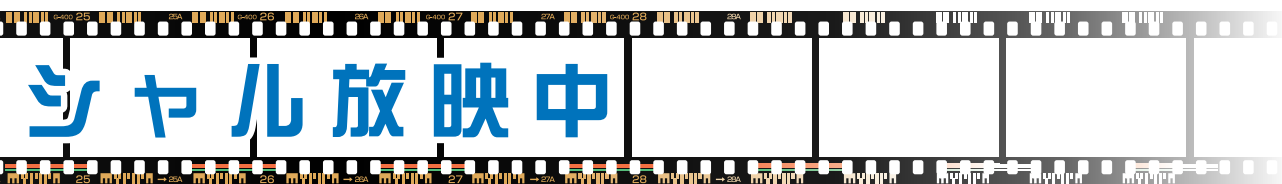
このコマージュは、本学の「芸術と表現」という授業の中で、学生がテーマを決め、絵コンテを作成し、本学非常勤講師の西村雄一郎氏（映画評論家）指導の下、学生自身により撮影が行われ制作したものです。今回のこのような取り組みは、国立大学として、全国初の試みとなります。

テーマは、「のどかなくせに、国際派」。

本学が地方の大学でありながら、他大学に比して留学生の割合が多いことや外国との学術交流協定が12校（2007年8月1日現在）と国際色豊かであるという特色をアピールしたものです。

コマージュの内容は、カナダ、ポーランド、インドネシア、スリランカ及び日本の学生が自国の国旗と学章にも採用されている「かちがらす」の折り紙をもち、佐賀大学へ「WELCOME」と呼びかけたものとなっています。

ご覧になられましたら、佐賀大学広報室へご感想などいただければ幸いです。



学生に佐賀大学のイメージを訊いた際、のどかな事と留学生が多い事が挙げられました。この「のどか」と「国際派」という普通は相容れない二つの面を両方アピールしたいと思い、このキャッチコピーが出来ました。

キャッチコピー：経済学部3年
津口 紀子

佐賀らしさと大学ののどかな雰囲気を出したいと思い、かささぎをモチーフに考えました。かささぎが様々な言語で挨拶している事で国際的だという事も表現出来たのではと思っています。

絵コンテ：文化教育学部3年
田中 里保



マスコットの「かちがらす」の折り紙

サークル紹介

チアリーディング部



主将
の 野瀬 智未
医学部看護学科3年

私たち佐賀大学医学部チアリーディング部☆starry☆は現在、部員約20人で活動しています。学園祭と新歓でのステージ発表が主な活動内容です。発表前は練習時間は増えませんが、普通は週1回、みんなで楽しく練習をしています。

今年の九月でチアリーディング部がたちあがって二年が経ちます。一年生の夏、私は友人と二人で部を立ち上げました。始めの頃は、メンバーもなかなか集まらず苦労したこともたくさんありますが、多くの方々の協力を得て、秋にやっと活動を開始できました。

練習を重ねて、少しずつチアリーディング部が知られていくようになり、空手の試合の場での発表などに声がかかるようになりました。

今では部員数も増え、夏休みもたくさん汗をかきながら練習を重ねています。

チアリーディングは、まだまだ日本ではよく知られていないスポーツです。チアリーディングは見た目は確かに華やかですが、体力が必要なスポーツで、笑顔の裏にはたくさんの練習での努力があるのです。

応援することから始まったチアリーディングですが、「cherr」という単語には「元気づける」という意味があります。

今までに言われて一番嬉しかったのは「あなたたちを見ると元気になれるよ」と言われたことです。私たちの笑顔を見て、一人でも多くの方が元気になってくれればいいなと思っています。

練習中は真剣ではありますが、笑顔が絶えない本当に楽しい場所です。また、チームワークは最強です☆これからもみんなで楽しく練習を行い、技を磨いていきます。



練習を行い、技を磨いていきます。

ハワイアンミュージック研究会



部長
の 野津 裕久
経済学部経済システム課程3年

私たち佐賀大学ハワイアンミュージック研究会は、現役部員(1~3年)30人、上級生部員(4年生以上)16人の計46人で活動しています。活動は毎週3回、サークル会館3階で行なっています。普段の活動のほかにも、お花見やバーベキュー、春夏2回の合宿など時期を問わずさまざまなイベントがあります。また、年に数回、部内でライブを開き、ハワイアンミュージックだけでなくさまざまなジャンルの曲を演奏するなど、1年を通してサークルを楽しんでいます。

ハワイアンミュージックといえば、ウクレレを連想しがちですが、その他にもスチールギターやピブラフォン、ボンゴなどたくさんの楽器を使って演奏します。もちろんギターやドラムなども使います。珍しい楽器が多い分、未経験者が多く、部員の半数以上が大学に入ってから音楽を始めています。難しい楽器もあって最初は大変ですが、自分の好きな楽器を好きだけ練習できるので、どんどん上達することができます。うまくなればなるほどバンドで合わせることが楽しくなっていきます。そして、その成果を大学祭や「まちおん」などで披露しています。また、いろいろなイベントから演奏を依頼されることもあり、以前ではフラダンスのグループと共演させていただきました。

そして、サークルの活動でもっとも大きく、1年の締めくくりとして毎年定期演奏会を行なっています。この演奏会は、企画から運営などを部員が自分たちでやります。練習などの準備期間も長く、半年前から動きだします。今年は12月1日(土)佐賀市民会館で行います。毎年、来ていただいた方に楽しんでいただけるよう頑張っており今年の演奏会でも、よりよい演奏を皆様にお届けできるよう頑張ります。皆様のご来場をお待ちしております。



少年サポートボランティア



少年・少女の心の居場所づくり

「少年サポートボランティア・ルピナス」では、家庭や学校に居場所がないなどの理由で、心のより所をなくした少年・少女に、心のより所となるような居場所をつくる活動を行っています。活動内容としては、佐賀県警の方と佐大生が協力して、少年達とともに料理を作ったり、スポーツをしたりする活動を行っています。時々、海に行ったり、農業体験をしたり、日常ではできない活動もあります。また、防犯のための看板を作ったり、ごみ拾い活動などの社会貢献活動を行い、少年達と達成感や人のために行動する喜びを共有しています。

私は、この活動に参加して2年目になります。初めは積極的に子ども達と関わりたいという思いはあるものの子ども達と仲良くなれるかが不安で、料理を作るときも大学生で固まったり、なかなか話しかけることができませんでした。また、この活動に参加してくれる子ども達は、それぞれ問題や悩みを抱えています。それらは私が経験したことのないような難しい問題ばかりで、そんな子ども達にどう関わっていけばいいかわからず、会話の中で気を使ってしまい、どこか遠慮してしまうところがあり、ぎこちない会話になってしまっていました。

しかし、活動を重ねる中で、何度も顔を合わせ、会話と重ねるようになり、何も戸惑うことはなかったことに気がつきました。一緒に料理やスポーツをする中で、会話していると、この子は純粋なんだと思うことが多くあります。問題を抱えているのは、この子ども達が素直で純粋だからこそ、人一倍傷つき悩んでいるということに気がついたのです。私がそんな子ども達のためにできることは、この活動をより楽しく、安心して甘えたり、笑い合えるものにするのだと思いました。そうするためには、まずは私自身が笑って、人一倍楽しむことが一番です。そう心から思えるようになってからは、子ども達にも変な気を使うことなく話せるようになり、本当に楽しく活動でき、今は活動がとても楽しみです。また、この活動で佐賀県警の少年課の方や少年補導員の方とかわるようになりました。

本当に尊敬できる方ばかりで、こんな大人になりたいと思う人にたくさん出会えたのも、このボランティアでしか経験できないことだと思っています。

私は、このボランティアを通して、たくさん得たものがあります。ボランティアは「してあげること」ではなく、「してもらおうもの」だと思いました。「してあげたこと」以上に、子ども達や、県警の方に「与えてもらったこと」のほうが多いのです。ボランティアに参加すれば、多く得るものがあるはずで、たくさんの人にそのよさに気付いてもらいたいと思っています。



ルピナス代表
文化教育学部学校教育課程3年
こがさちえ
古賀佐智恵



桑原広樹さん
佐賀警察本部少年課警部補

ランチ特集

By 卓球部



自分イチオシのランチは、小城にある「ドライブイン平」の大盛りカツカレーです。大きな皿から溢れるカレールー、そして大きなトンカツ。おなかがいいてどうしようという時の一品だと思います。この大盛りカツカレーは、一度は食べてみる価値あり!!

経済学部 経営法律課程 3年
かわ ばた なり ひろ
川 畑 成 央



私のおすすめランチは、「どんどん亭」のお好み焼きです。部活のみんなとワイワイしながら焼くのがとても楽しいです。また、たくさんの種類があり、何回行っても飽きません。ぜひ、学科、部活の友達と行ってみてはいかがでしょうか?

経済学部 経済システム課程 2年
こ まつ ゆ き
小 松 由 樹

国立大学法人佐賀大学の役職員の報酬・給与等について(概要)

国立大学法人佐賀大学では、役員報酬等及び職員の給与の水準を公表しております。公表内容につきましては、「佐賀大学ホームページ <http://www.saga-u.ac.jp>」をご覧ください。また、人事課給与管理係で文書資料を用意しておりますので、ご連絡ください。(TEL0952-28-8125) なお、公表内容の概要は次のとおりです。

1. 職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標

事務・技術職員	
対国家公務員〔行政職(一)〕	81.9
対他の国立大学法人等〔事務・技術職員〕	95.5
教育職員(大学教員)	
対他の国立大学法人等〔教育職員(大学教員)〕	96.6
医療職員(病院看護師)	
対国家公務員〔医療職(三)〕	100.3
対他の国立大学法人等〔医療職員(病院看護師)〕	103.9

注：当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合は給与水準に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項
* 教育職員(大学教員)と平成15年度の国の教育職(一)との比較指標
教育職員(大学教員)
対国家公務員〔平成15年度の教育職(一)〕 97.2

2. 総人件費について

区 分	当年度 (平成18年度)	前年度 (平成17年度)	比較増△減	中期目標期間 開始時 (平成16年度) からの増△減
給与、報酬等支給総額 (A)	千円 11,395,498	千円 11,485,567	千円 △ 90,069 (%) (△ 0.8)	千円 △ 18,840 (%) (△ 0.2)
退職手当支給額 (B)	千円 850,516	千円 736,563	千円 113,953 (%) (15.5)	千円 2,559 (%) (0.3)
非常勤役員等給与 (C)	千円 1,620,779	千円 1,609,248	千円 11,531 (%) (0.7)	千円 167,277 (%) (11.5)
福利厚生費 (D)	千円 1,624,207	千円 1,652,818	千円 △ 28,611 (%) (△ 1.7)	千円 11,699 (%) (0.7)
最広義人件費 (A+B+C+D)	千円 15,491,000	千円 15,484,196	千円 6,804 (%) (0.0)	千円 162,695 (%) (1.1)

注：「非常勤役員等給与」においては、受託研究費により雇用される職員に係る費用及び人材派遣契約に係る費用を含んでいるため、当法人の財務諸表「附属明細書」の「17 役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

この3ヶ月の間に、広報として始めての企画を次々実施しました。テレビコマシャルの放映(現在も放映中)、佐賀駅コンコースでの定期的なイベント、佐賀インターナショナルバルーンフェスタへの出演などです。どれも佐賀大学のイメージアップや「佐賀に佐賀大学あり」という存在感のアピールを狙った企画です。中でも、イメージアップのためのテレビコマシャルの放映は、国立大学としては全国初の試みであり、しかも授業の延長として製作された、いわば「教育の成果」の発表として、マスコミでも取り上げられました。この取組みは、本誌で詳しく紹介しています。

大学広報も、打って出る時代となつています。いろんなことをやっていると、最近、佐大は「元気がいいね」という声がかかります。ただ、必要な情報を効果的な形で発信しているかの検証は大事です。読者の皆様の忌憚のないご意見・ご要望をお願いいたします。

(広報室長 早瀬 博範)

編集後記



救命の連鎖 家族から医療従事者へバトンタッチ



蘇生の会 代表
医学部医学科5年
と やま よし たか
外 山 由 貴

目の前で人が倒れたとき、真っ先に駆け寄って何かが出来る人間、これはイコール医師や看護師でしょうか？違いますよね。土壇場で何も出来ない医師もいるし、必死にその人を救おうとする一般の人もいると思います。

蘇生の会は何をやるサークルなのか？よく聞かれるのですが、答えるのはなかなか難しかったりします。

人の生死がかかったその瞬間というのは物凄いストレスだと思います。そんな時に冷静な処置ができるのか、近い将来医師になる僕は今から不安です。しかし、その時に備えて心構えをしておくことは今からでも可能です。心構えには精神面だけでなく心肺蘇生法などの処置に慣れておくことも含まれます。蘇生の会はそのような知識、実技、そして覚悟を学生間で勉強しながら身に付けることを目標にしてい

ます。今、蘇生の会のメンバーは医学科看護科合わせて40名程いますが、これだけのメンバーが現場に出たら・・・心強いと思いませんか？

ところで、人を救うには医療従事者だけでは救えません。人が倒れた瞬間から救急車を呼んで、救急車が来るまで何もしなければ、もし心臓が止まっていたとしたら蘇生率は極端に下がってしまいます。ここで周りに心肺蘇生を出来る人がいたら、AEDを使える人がいたら助かる命はもっと沢山あると思います。

倒れた人の家族が適切な処置を行い、医療従事者に引き継ぐ、これを救命の連鎖と言います。

この鎖を繋ぐために僕らにはもっと出来ることがある、と始めた活動が「一般人向けのAED・心肺蘇生法講習会」です。医学生に教えるのと一般の方々に教えるのでは

全く違い、苦労も多いですが、興味を持って

くれる人も多く、やり甲斐があります。

誰もが勇気を持って倒れた人

に駆け寄れるようになるように、これからも

佐賀大学本庄キャンパス等様々な場所で講習

会を開いていこうと思います。

気になった人は是非御参加を。



作品名 「^{ほし}星^{くず}屑^{かさ}の^{かさ}重ね」

しらいし 白石 ^{えり} 恵里 (文化教育学部美術・工芸課程3年・彫塑専攻)
(第57回佐賀県美術展にて佐賀県知事賞受賞)



【作者プロフィール】

1986年 福岡県鞍手郡鞍手町出身
2005年 佐賀大学文化教育学部入学
佐賀県美術展入選
2006年 佐賀美術協会展入選
2007年 白日展入選
佐賀美術協会展鍋島報効会賞
日本彫刻会展入選
佐賀県美術展佐賀県知事賞

【作者コメント】

今回の作品は水の性質を利用した
いろいろな表現技法の模索の中で生
まれました。
人間の力で制することのできない
自然の力に苦戦しながらも、水が創
り出す豊かな表情にわくわくしなが
ら制作しました。

